

# 平成22年2月 全国百貨店売上高概況

平成22年3月19日

## I. 概況

1. 売上高総額	4,364億円余
2. 前年同月比	-5.4% (店舗数調整後/24か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	86社 269店 (平成22年1月対比-2店)
4. 総店舗面積	6,609,153㎡ (前年同月比:-2.7%)
5. 総従業員数	97,101人 (前年同月比:-3.1%)
6. 3か月移動平均値	7-9月 -9.7%、8-10月 -9.1%、9-11月 -10.2%、 10-12月 -8.8%、11-1月 -7.4%、12-2月 -5.4%

[参考] 平成21年2月の売上高増減率は-11.5% (店舗数調整後)

### 【2月売上の特徴】

24か月連続の前年同月比マイナスであるが、減少率は3か月連続5%台と横這いで推移した。また、トレンドを示す3か月移動平均値(12-2月:-5.4%)は持ち直し傾向にある。

2月は、寒暖差の大きい天候を背景に、月の前半は厳しい冷え込みで春物商材が苦戦を強いられたが、後半以降は気温上昇に伴って徐々に季節需要が回復し、ファッション衣料や服飾雑貨を中心に活発な動きが見られた。消費者の慎重な購買行動は続いているものの、政府の景気対策効果や企業収益改善による株価の安定などから、不振を続けてきた高額商材(宝飾品、輸入雑貨等)も比較的堅調に推移し、緩やかではあるが着実に持ち直しの傾向が出てきた。

具体的な動向としては、セール比率の高まりで客単価が伸び悩んだことや、一部店舗における改装工事(売場面積減少)の影響などマイナス要素がある一方、文化催事・物産展などの集客施策が好調に推移したこと、冬季五輪TV観戦による入店客数への影響がなかったこと、バレンタイン商戦がほぼ前年並みで推移したこと、春節休暇による訪日外国人の入店が急伸し売上が倍増(前年比220.5%/調査対象41店舗)したこと等のプラス要素が報告されている。

### 【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「2月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇ 月の初めと中頃に寒気の影響で一時的に低温となったが、上旬後半と下旬には南からの温かい空気が流れ込んで全国的に気温が上昇するなど、気温の変動が大きかった。また東日本を中心に曇りや雨又は雪の日が多かった。

(2) 営業日数増減 27.7日(前年同月比-0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日( " ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した:20店、②変化なし:29店、③減少した:86店、④不明:48店

(5) 2月歳時記(バレンタインデー、節分、立春)の売上(同上)

①増加した:15店、②変化なし:38店、③減少した:61店、④不明:69店

(6) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)

①増加する:10店、②変化なし:57店、③減少する:58店、④不明:58店

# 全国百貨店 売上高速報 2010年02月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ( )が調整前

地区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
<b>全国</b>	<b>436,439,326</b>	<b>100.0</b>	<b>-5.4 ( -7.1)</b>
<b>10都市</b>	<b>279,283,545</b>	<b>64.0</b>	<b>-5.7 ( -7.2)</b>
札幌	11,095,126	2.5	0.8 ( -5.7)
仙台	5,469,603	1.3	-12.2
東京	107,078,317	24.5	-6.5 ( -7.7)
横浜	24,394,704	5.6	-3.6
名古屋	25,186,017	5.8	-5.8
京都	17,126,070	3.9	-5.1
大阪	54,576,736	12.5	-7.1 ( -11.1)
神戸	12,050,631	2.8	-3.1
広島	10,042,654	2.3	-5.3
福岡	12,263,687	2.8	-1.0
<b>10都市以外の地区</b>	<b>157,155,781</b>	<b>36.0</b>	<b>-5.1 ( -6.8)</b>
北海道	2,755,328	0.6	6.8 ( -21.9)
東北	9,261,552	2.1	-2.1
関東	74,627,240	17.1	-5.4
中部	12,682,533	2.9	-5.4 ( -7.8)
近畿	14,925,178	3.4	-4.7
中国	10,829,037	2.5	-8.4
四国	7,963,883	1.8	-6.3
九州	24,111,030	5.5	-4.2 ( -10.7)

第2表 商品別売上高

商品別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
<b>総 額</b>	<b>436,439,326</b>	<b>100.0</b>	<b>-5.4 ( -7.1)</b>
紳士服・洋品	26,533,733	6.1	-6.3 ( -7.8)
婦人服・洋品	93,531,497	21.4	-6.9 ( -8.5)
子供服・洋品	11,495,831	2.6	-5.3 ( -6.0)
その他衣料品	12,342,451	2.8	-7.5 ( -9.1)
<b>衣 料 品</b>	<b>143,903,512</b>	<b>33.0</b>	<b>-6.7 ( -8.2)</b>
身のまわり品	50,964,894	11.7	-5.3 ( -7.8)
化粧品	24,376,320	5.6	-1.7 ( -2.7)
美術・宝飾・貴金属	19,237,944	4.4	-3.5 ( -6.5)
その他雑貨	20,912,592	4.8	-11.1 ( -14.0)
<b>雑 貨</b>	<b>64,526,856</b>	<b>14.8</b>	<b>-5.5 ( -7.8)</b>
家具	6,103,955	1.4	-8.2 ( -10.3)
家電	1,479,481	0.3	-5.1 ( -6.2)
その他家庭用品	14,901,697	3.4	-4.2 ( -5.7)
<b>家 庭 用 品</b>	<b>22,485,133</b>	<b>5.2</b>	<b>-5.4 ( -7.0)</b>
生鮮食品	25,167,833	5.8	-2.3 ( -3.0)
菓子	43,928,369	10.1	-3.6 ( -4.6)
惣菜	25,029,695	5.7	-5.2 ( -5.9)
その他食料品	33,611,079	7.7	-2.5 ( -4.7)
<b>食 料 品</b>	<b>127,736,976</b>	<b>29.3</b>	<b>-3.4 ( -4.6)</b>
食堂 喫茶	12,612,296	2.9	-5.7 ( -7.0)
サービス	5,149,100	1.2	-6.9 ( -8.0)
その他	9,060,559	2.1	-11.7 ( -12.2)
<b>商 品 券</b>	<b>15,118,627</b>	<b>3.5</b>	<b>17.7 ( 16.4)</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

## Ⅱ. 地区別の動き

- |                  |       |                     |
|------------------|-------|---------------------|
| 1. 10都市売上動向      | -5.7% | (店舗数調整後／24か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -5.1% | ( " / 32か月連続マイナス)   |

### 【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-5.7	-3.6	24か月連続マイナス
札幌	0.8	0.0	18か月ぶりプラス
仙台	-12.2	-0.2	22か月連続マイナス
東京	-6.5	-1.6	24か月連続マイナス
横浜	-3.6	-0.2	19か月連続マイナス
名古屋	-5.8	-0.3	27か月連続マイナス
京都	-5.1	-0.2	18か月連続マイナス
大阪	-7.1	-0.9	24か月連続マイナス
神戸	-3.1	-0.1	2か月連続マイナス
広島	-5.3	-0.1	24か月連続マイナス
福岡	-1.0	0.0	19か月連続マイナス
10都市以外の地区	-5.1	-1.8	32か月連続マイナス
北海道	6.8	0.0	9か月連続プラス*
東北	-2.1	0.0	23か月連続マイナス*
関東	-5.4	-0.9	32か月連続マイナス
中部	-5.4	-0.2	23か月連続マイナス
近畿	-4.7	-0.2	23か月連続マイナス
中国	-8.4	-0.2	21か月連続マイナス*
四国	-6.3	-0.1	32か月連続マイナス
九州	-4.2	-0.2	30か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

### Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、13か月連続で全品目がマイナスとなった。衣料品が先月より1.8ポイント改善したが、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品は若干落とす結果となった。また、紳士服・洋品、婦人服・洋品、子供服・洋品、家電、生鮮食品、惣菜が先月より改善する動きとなった。

#### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	-5.4	—	24か月連続マイナス
紳士服・洋品	-6.3	-0.4	23か月連続マイナス
婦人服・洋品	-6.9	-1.5	32か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.3	-0.1	18か月連続マイナス
その他衣料品	-7.5	-0.2	24か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	-6.7	-2.2	32か月連続マイナス
<b>身のまわり品</b>	-5.3	-0.6	30か月連続マイナス
化粧品	-1.7	-0.1	15か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-3.5	-0.2	36か月連続マイナス*
その他雑貨	-11.1	-0.6	27か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	-5.5	-0.8	24か月連続マイナス
家具	-8.2	-0.1	27か月連続マイナス
家電	-5.1	0.0	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-4.2	-0.1	24か月連続マイナス
<b>家庭用品</b>	-5.4	-0.3	27か月連続マイナス
生鮮食品	-2.3	-0.1	13か月連続マイナス*
菓子	-3.6	-0.4	5か月連続マイナス*
惣菜	-5.2	-0.3	21か月連続マイナス*
その他食料品	-2.5	-0.2	5か月連続マイナス*
<b>食料品</b>	-3.4	-1.0	13か月連続マイナス
食堂喫茶	-5.7	-0.2	19か月連続マイナス
サービス	-6.9	-0.1	11か月連続マイナス
<b>その他</b>	-11.7	-0.3	6か月連続マイナス
<b>商品券</b>	17.7	0.5	4か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで

TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>